

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

特集コーナー

□ 百日咳（小児科定点把握対象疾患）

百日咳は、*Bordetella pertussis*（百日咳菌）が原因の呼吸器感染症です。感染すると発熱はみられないか出ても微熱の場合が多く、特有の痙攣性の咳発作などの症状が出ます。大人は症状が軽い場合が多いといわれていますが、6ヵ月未満の乳幼児では特徴的な咳症状が出ずに無呼吸発作やチアノーゼを引き起こし、呼吸停止に至る場合があります。一般的に春から夏に報告数が増加するといわれています。小児科定点医療機関から毎週患者数の報告が行われるとともに、衛生環境研究所微生物部において検体からの病原体検出を行っています。微生物部の百日咳菌の検出数は平成26年（2014年）から増加しています（図1）。ワクチン接種から時間が経過し抗体価が下がるといわれている青年期から成人の報告数の割合が増加しており（図2）、乳幼児への感染源として懸念されています。対象年齢のこどものワクチン接種を必ず行うとともに、2週間以上の長引く咳等の症状が出た場合には医療機関に相談しましょう。

図1 微生物部の月別百日咳菌検出数
(2012年1月~2015年2月)

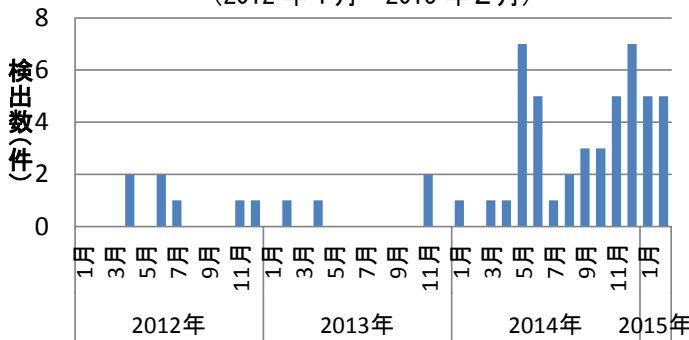
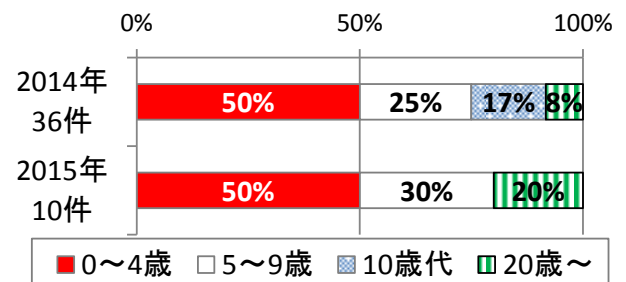


図2 百日咳陽性患者の年齢群別割合
(2014年及び2015年1月と2月)



宮崎県第11週の発生動向

□ 全数報告の感染症（11週までに新たに届出のあったもの）

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。3類感染症：報告なし。

4類感染症：報告なし。5類感染症：ウイルス性肝炎1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	男	肺結核	症状なし 画像所見あり
		小林	80歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
5類	ウイルス性肝炎	宮崎市	70歳代	男	C型	全身倦怠感、褐色尿、肝機能異常、黄疸、食欲低下

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 967 人（定点当たり 25.2）で、前週比 85%と減少した。前週に比べ大きく増加した疾患はなかった。減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。

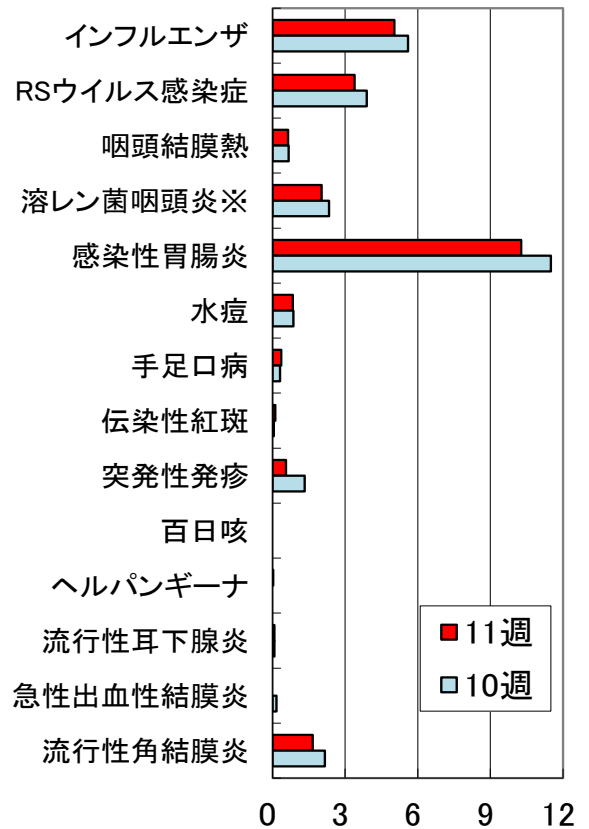
★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

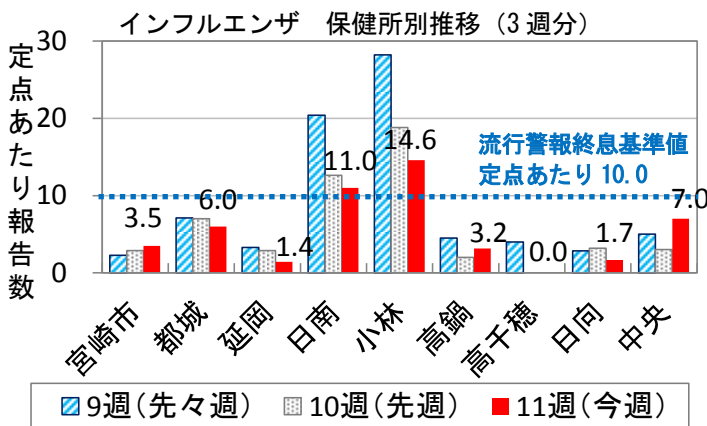
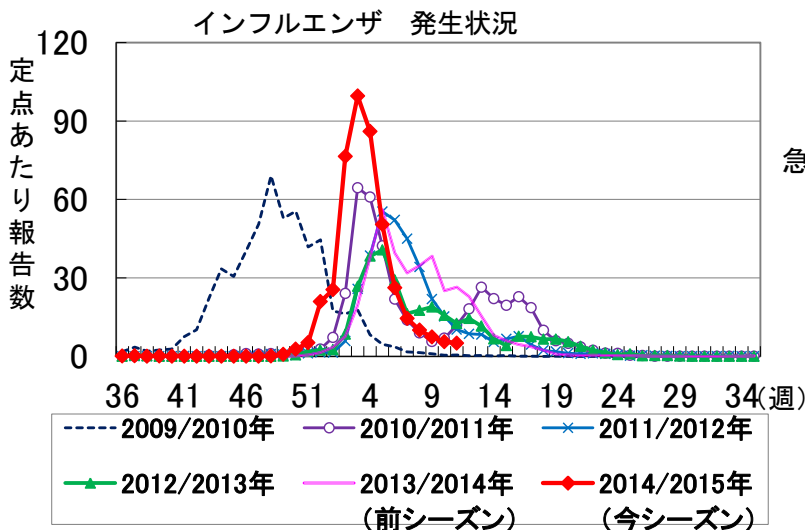
・報告数は 297 人（5.0）で、前週比 90%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*（12.6）の約 0.4 倍であった。小林（14.6）、日南（11.0）保健所からの報告が多く、年齢群別では 5 歳未満が全体の 21%、5-9 歳が 33%、10-14 歳が 19%、15-19 歳が 6%、20-59 歳が 17%、60 歳以上が 4%を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

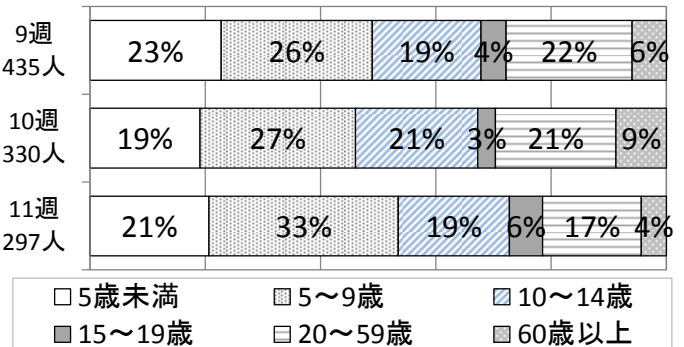
《前週との比較》



定点あたり報告数
※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

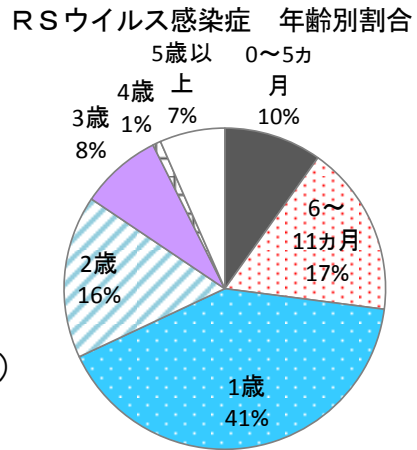
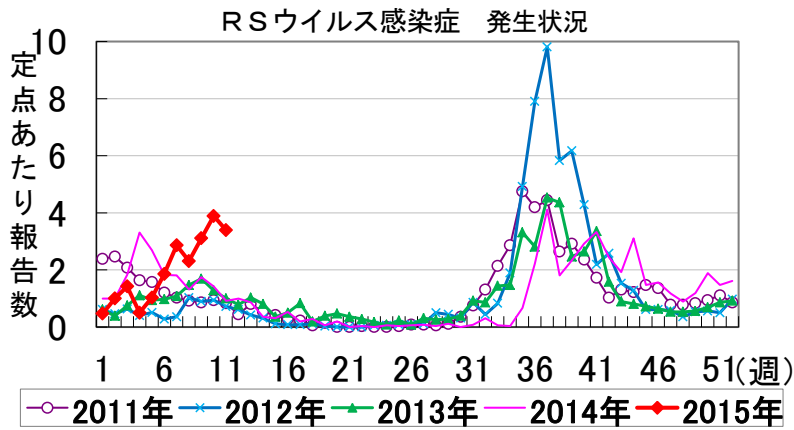


インフルエンザ 年齢別割合推移 (3週分)



【RSウイルス感染症】

・報告数は 122 人（3.4）で、前週比 87%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*（1.0）の約 3.3 倍であった。延岡（19.8）保健所からの報告が多く、年齢別割合をグラフに示す。



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	インフルエンザ(11.0)
小林	インフルエンザ(14.6)、感染性胃腸炎(26.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)、 感染性胃腸炎(20.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

- ・インフルエンザ(10.0)

★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：日向保健所管内で1例報告された。0歳で、原因病原体の群別不明。

全国第10週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第10週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	367例			
3類感染症	細菌性赤痢	2例	腸管出血性大腸菌感染症	21例	
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	7例	エキノкокクス症 1例
	デング熱	2例	レジオネラ症	17例	レプトスピラ症 1例
5類感染症	アメーバ赤痢	10例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 21例
	急性脳炎	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4例
	後天性免疫不全症候群	23例	ジアルジア症	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 3例
	侵襲性肺炎球菌感染症	38例	水痘(入院例)	2例	梅毒 31例
	破傷風	1例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例	風しん 3例
	麻しん	2例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比96%とほぼ横ばいであった。今週増加した疾患は手足口病と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

インフルエンザの報告数は21,323人(4.3)で、前週比73%と減少した。高知県(9.9)、大分県(7.6)、岩手県(7.4)からの報告が多く、年齢別では5歳未満が全体の約18%、5~9歳が30%、10~14歳が18%、15~19歳が4%、20~59歳が22%、60歳以上が8%を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は9,793(3.1)で、前週比103%とほぼ横ばいであった。山形県(6.8)、石川県(6.7)、鳥取県(6.2)からの報告が多く、年齢別では4~6歳が全体の約4割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第11週(3月9日～3月15日)

疾病名		第10週	第11週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	330	297	56	60	10	55	73	19		10	14
	定点あたり	5.59	5.03	3.50	6.00	1.43	11.00	14.60	3.17	0.00	1.67	7.00
RSウイルス 感染症	報告数	140	122	5		79	1	2	8	2	25	
	定点あたり	3.89	3.39	0.50	0.00	19.75	0.33	0.67	2.00	2.00	6.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	24	23	7		5	6				5	
	定点あたり	0.67	0.64	0.70	0.00	1.25	2.00	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	84	73	24	11	9	3		6	1	11	8
	定点あたり	2.33	2.03	2.40	1.83	2.25	1.00	0.00	1.50	1.00	2.75	8.00
感染性胃腸炎	報告数	414	370	59	73	12	34	78	57	9	28	20
	定点あたり	11.50	10.28	5.90	12.17	3.00	11.33	26.00	14.25	9.00	7.00	20.00
水痘	報告数	31	30	6		12	5		2		5	
	定点あたり	0.86	0.83	0.60	0.00	3.00	1.67	0.00	0.50	0.00	1.25	0.00
手足口病	報告数	11	13	2	8			3				
	定点あたり	0.31	0.36	0.20	1.33	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	2	4	2		1			1			
	定点あたり	0.06	0.11	0.20	0.00	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	48	20	13	2	2			1		2	
	定点あたり	1.33	0.56	1.30	0.33	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数		1									1
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	3	3		1	2						
	定点あたり	0.08	0.08	0.00	0.17	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	報告数	13	10	10								
	定点あたり	2.17	1.67	3.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	3	1								1	
	定点あたり	0.43	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～11週)

2類感染症	結核	49例(2)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例				
4類感染症	つつが虫病	3例	マラリア	1例		
5類感染症	ウイルス性肝炎	2例(1)	急性脳炎	1例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒	2例	播種性クリプトコックス症	1例
	破傷風	1例				

()内は今週届出分、再掲

月報告対象疾患の発生動向 <2015年2月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は35人(2.7)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年2月(3.1)の約0.9倍であった。

《疾患別》

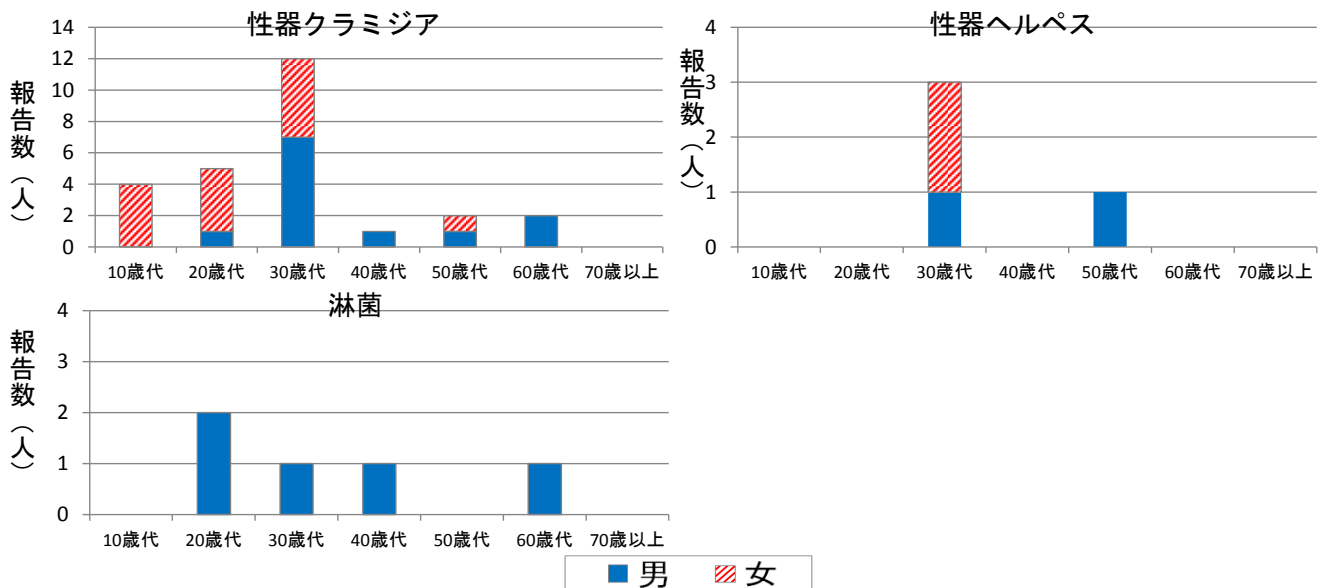
○性器クラミジア感染症：報告数26人(2.0)で、前月の約1.2倍、昨年2月と同程度であった。年齢別では30歳代が全体の約半数を占めた。

(男性12人・女性14人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人(0.31)で、前月と同じ、昨年2月の0.8倍であった。
(男性2人・女性2人)

○尖圭コンジローマ：報告はなかった。

○淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約0.7倍、昨年2月の約0.6倍であった。20歳代が全体の4割を占めた。(男性5人)



【全国】 定点医療機関総数：980

定点医療機関からの報告総数は3,777人(3.9)で、前月比91%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,881人(1.9)で前月比91%、性器ヘルペスウイルス感染症729人(0.74)で前月比94%、尖圭コンジローマ473人(0.48)で前月比102%、淋菌感染症694人(0.71)で前月比84%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は29人(4.1)で前月比112%と増加した。また昨年2月(3.7)の約1.1倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数28人(4.0)で、前月の約1.2倍、昨年2月の約1.1倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、前月の0.5倍であった。
(昨年2月報告なし)

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：472

定点医療機関からの報告総数は1,617人(3.4)で、前月比99%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,439人(3.1)で前月比100%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症161人(0.34)で前月比87%、薬剤耐性緑膿菌感染症17人(0.04)で前月比100%であった。